

2025 年（令和 7 年）11 月 20 日

「辰野町立小・中学校あり方検討委員会」論点整理

辰野町立小・中学校あり方検討委員会

1 はじめに

本委員会においては、2023 年（令和 5 年）9 月に制定された「辰野町立小・中学校あり方検討委員会設置要綱」に基づき、2028 年度（令和 10 年度）以降の小・中学校のあり方について、町の教育理念と方針を受け、急激に進む少子化社会にあっても小・中学校が魅力ある学びの場となるために、少子化の進展に対応した望ましい教育環境等について、2024 年（令和 6 年）1 月より 10 回にわたって検討を重ねてきた。少子化の進展に対応した新たな学校のあり方、学び方・教室の風景、学校と地域との連携等について自由に意見を出し合いながら討議を進め、これからの時代にふさわしい小・中学校のあり方について、ここに検討の結果を整理した。

この論点整理は、今後町教育委員会が新たな小・中学校のあり方、方向性を具体的に検討していくうえでの基本方針となるものであると共に、住民の皆さんにとっても将来の小・中学校のあり方を共に考えていただくための試案となるものである。

町教育委員会では、この論点整理をもとに、町と共に、新たな小・中学校の姿、教育方針、学校の具体的な場所、時期、財政面等について協議を進め、地域での説明会を開催するなど住民の皆さんの意見を聞きながら検討していくことになる。

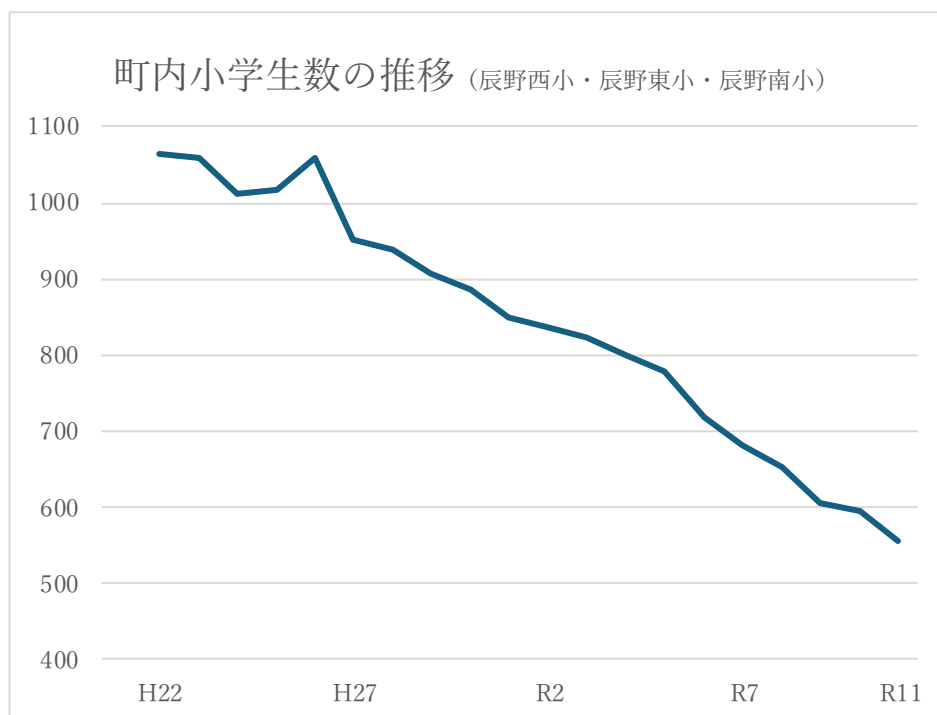
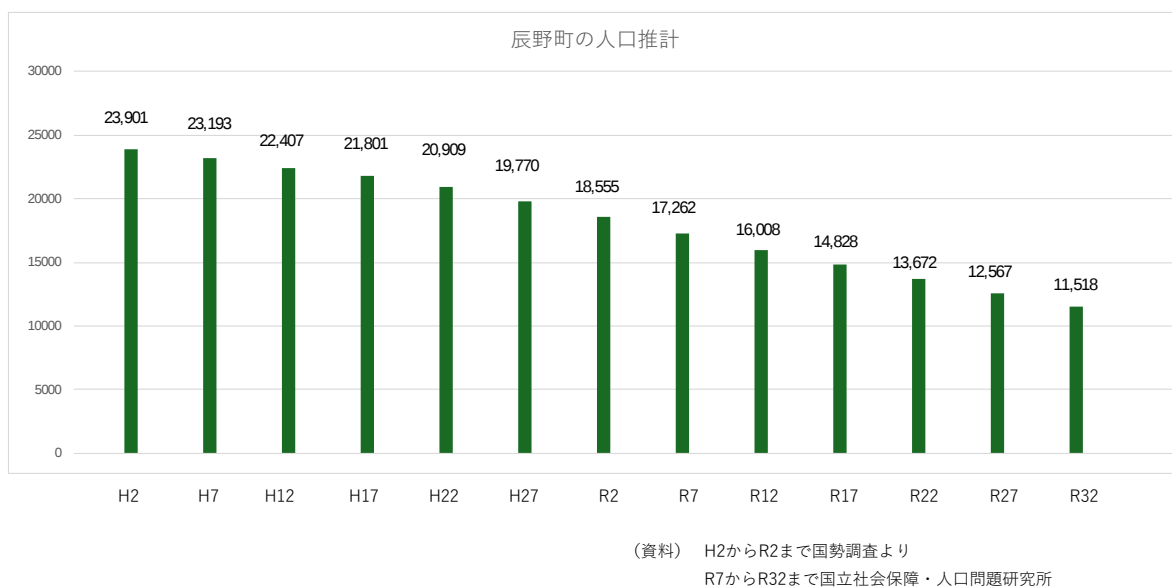
2 辰野町の小中学校をめぐる現状

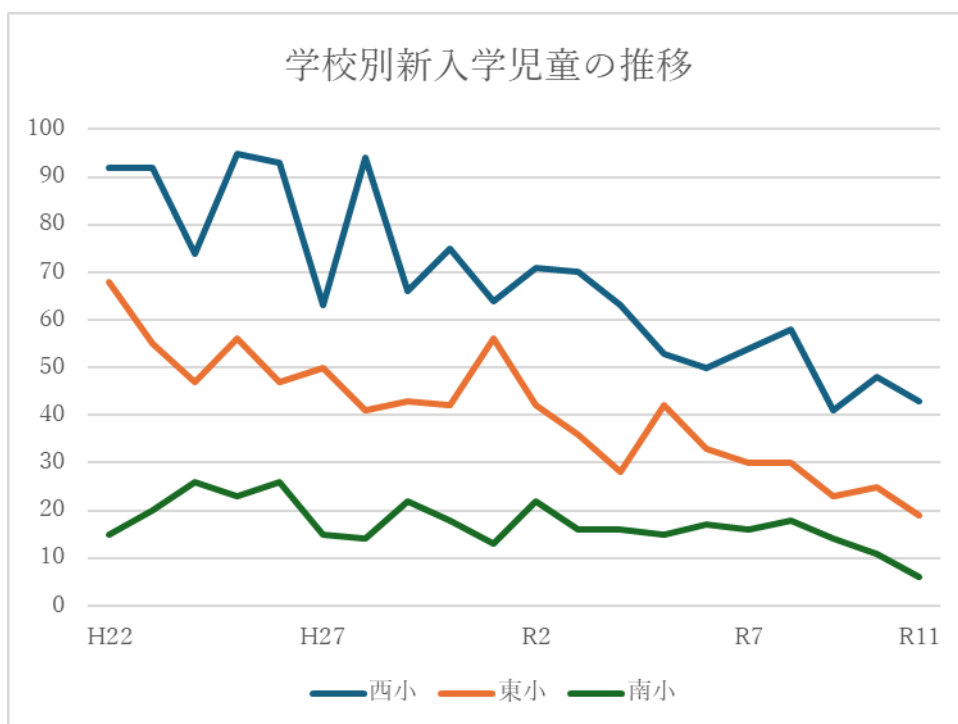
（1）辰野町の人口及び児童生徒数の推移

2025 年（令和 7 年）の町の人口は 17,262 人と 2000 年（平成 12 年）の 22,407 人から、25 年間で約 5,100 人、約 23%減少している。人口推計ではさらに減少を続け、25 年後の 2050 年（令和 32 年）には 11,518 人と約 5,700 人、約 34%の減少が見込まれている。

人口は 2000 年（平成 12 年）から 50 年間で約 49%減少するのに対し、小学校児童数（辰野西小学校、辰野東小学校、辰野南小学校）は、2010 年（平成 22 年）の 1,064 人から 2029 年（令和 11 年）には 556 人へと 20 年間で約 48%の減少が見込まれる。学級数では町全体で 35 学級から 24 学級と 11 学級の減少であり、1 学級の人数が 10 人を切る学年も出てくる。2029 年（令和 11 年）の入学予定者は 68 人

であり、単純に計算すると、町内全体で2学級に収まってしまうことになる。





(2) 学校教育に求められるもの

急激に進むICT化とAIの導入、社会の価値観の変化等予測困難な時代を生き抜いていく子どもたちには、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力が求められている。学校での学びを通じ、子どもたちがそのような「生きる力」を育むために、2020年度（令和2年度）より実施されている現行学習指導要領では「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業を改善する「主体的・対話的で深い学び」を子どもたちに求める学びの姿としている。具体的には、

- ・一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と思える授業
- ・見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業
- ・周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業
- ・自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業

を工夫して、子どもたちの資質・能力を育んでいくこととしている。

2021年（令和3年）1月に中央教育審議会より答申された『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して』では、全ての子どもたちの可能性を引き出す、『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実が示され、子どもたち一人一人が、自分なりの問いを立て、自分なりの学び方を選択し、必要に応じて必要な人と共に学び合いながら、自分なりの答えにたどり着くような授業づくりを進めるとしている。

以上のように、子どもたち一人一人の学びを充実させ、「生きる力」を育んでいくためには、『個別最適な学び』と共に『協働的な学び』を充実させることが大切である。集団での学びを通して、一人一人の良さや可能性が生かされ、異なる価値観や考え方に触れて一人一人の学びがより深まっていくことが求められているのである。

3 辰野町が目指す教育ビジョン

(1) 基本理念

一人一人の個性や特性に応じた学びを支援することを通して、将来に向かって学び続ける子どもの育成を図る。

(2) 育てたい人間像

- ① 広い視野と豊かな創造力を持った子どもの育成を図り、これからの予測困難な社会にあっても力強く生き抜く力を備えた人
- ② ふるさと『辰野町』に学び、故郷に誇りや愛着を持った人

(3) 辰野町が目指している教育

- ① 未来に向かって生きる（伸びゆく）「たつのっ子」
 - ・ 確かな学力 ・ 豊かな人間性 ・ 健康・体力

4 今後の課題

町の児童生徒を取り巻く小・中学校の今後の教育環境をみたとき、急激な少子化による学びの集団が小さくなることにより、人間関係が固定化したり、多様な考えを基により深い学びを実現させることが難しくなったりする。学級数の減少に伴い配置される県費教職員数が減少する等課題が山積し、現在の学校配置では、活気ある良好な教育環境を継続的に維持していくことが極めて困難な状況になることが想定される。

しかし、子どもたちの学びの場である義務教育の質的充実は常に確保されていなければならない、将来を展望した新しい学校の形を検討していく時期に来ている。

5 検討事項

(1) 少子化の進展に対応した新たな学校づくりに関する事項

① 少子化の進展に対応した望ましい教育環境のあり方に関する事項

a : 小・中学校の配置及び通学区に関する事項

・ 学びの適正規模、適正配置及び学校制度 等

b : 小・中学校間の連携のあり方に関する事項

② 小・中学校と地域との連携のあり方に関する事項

a : 辰野町の良さ、特徴を生かした新たな教育課程等のあり方に関する事項

・ 学校制度及び教育課程の概要 等

b : 教育課程外の活動のあり方に関する事項

c : 放課後及び課外活動の位置づけ及び地域連携に関する事項 等

(2) 就学前から一貫した支援・指導のあり方に関する事項

① 多様化する児童生徒への支援・指導のあり方に関する事項

② 保育園から小学校・中学校の連携のあり方に関する事項

③ 保育園・幼稚園から高等学校、短期大学まで揃った町の良さを生かした学校づくりに関する事項

(3) その他、教育委員会が必要と認める事項

6 検討事項にかかわっての論点整理

(1) 少子化の進展に対応した新たな学校づくりに関する事項

① 少子化の進展に対応した望ましい教育環境のあり方に関する事項

○急激な少子化を考慮し、学びの集団としての人数、複数の学級を確保し、活気ある良好な教育環境を継続的に維持していくために、3つの小学校（辰野西小学校・辰野東小学校・辰野南小学校）を何らかの形で集約（再編）したい。

○小・中学校の9年間で育てたい人間像に向け、9年間の連続した学び、活動が可能となるよう、小中一貫教育(小中一貫型学校・義務教育学校)を推進したい。

・子どもたちが一定規模の集団生活を送る中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人一人の資質や能力を伸ばしていく学びが期待できる。

・学年に複数の学級が保障されることにより、クラス替えが可能となり、固定化された人間関係がリセットされ、子どもたちは、より多くの友だちと人間関係を築くことが期待できる。

・町教育委員会の基本理念、育てたい人間像に沿って、小学校と中学校が同じ教育

目標のもと、義務教育9年間の教育課程を系統的に編成した教育活動を行う小中一貫教育により、子どもたちの学びが校種を超えても途切れることなく紡がれていくことが期待できる。

- ・教職員にとっても小中一貫教育を行うことにより、小・中学校の枠を越えて互いに連携・協働し合いながら、よりよい教育の創造を目指していくことが期待できる。また、多くの教職員の目で子どもたち一人一人を継続して見守っていくことも期待できる。

○学校を集約することにより生じる、通学や地域とのかかわり等の課題について配慮したい。

- ・学校が遠くなり歩いて通えない
- ・通学時の安全面が心配
- ・道草ができない
- ・学区が広くなることにより学校支援ボランティアのかかわりが難しくなる
- ・今までのように学校と地域とがかかわれるのか

等の課題も生じることが考えられる。

これらの課題については、今後検討した上で新たな学校の姿を構築していくものである。

○学校を集約する時期、学校の姿、場所等については、将来にわたり望ましい教育ができる形態や環境を見据え、十分な検討を行ったうえで進めていきたい。

② 小・中学校と地域との連携のあり方に関する事項

○新たな学校でも、学校と地域とで連携・協働して子どもたちを育てていくことを大事にしたい。

- ・小・中学校では現在、地域の「ひと・もの・こと」を中心に多くのことを学んでいる。新たな学校でも、町の魅力、特色を生かした教育課程を編成し、体験を通じた学びを大事にしながら、町への愛着を深めたり誇りを持ったりする心の育成を期待したい。
- ・引き続き学校支援ボランティア等学校と地域とで連携・協働して子どもたちを育てていきたい。地域の方々と共に取り組む探究的な学びも大事にしたい。
- ・町には地域が学校を支える気風があり、従来より学校と地域が育てたい子ども像を共有しながら連携・協働して子どもたちを育ててきた。子どもたちが9年間を通して町の様々な人々との出会いの中で、自らの生き方を考えることができるよう、今後も子どもたちと地域とのつながりを期待したい。

- ・子どもたちが地域の行事等に参画することにより、地域で地域の子どもを育てていくことも大事にしたい。
- ・子どもたちにとって、地域に育ててもらっていると感じられる学校、ここで育ててもらってよかったと思えるかかわりをめざしたい。

○自然体験、社会体験等五感を使った学び、キャリア教育等社会とつながる学びを大切にしたい。

- ・今後ICTの活用がさらに進んだりAIが導入されたりしても、五感を使った実体験を「学び」の原点としなければならないことは言うまでもない。

子どもたちは、具体的な体験や事物とのかかわりをよりどころに、感動したり、驚いたり、疑問をもったりしながら学んでいくものである。人生の中で最も感受性豊かな小・中学生期の子どもたちにとっては、実体験を通しての学びが、次の新たな学びのためのエネルギーとなる。

- ・積極的に校外に出て、自然体験や社会体験を行うことを通して、心身共に健康でバランス感覚を持った子どもの育成を期待したい。

○教育課程外の活動のあり方、放課後の子どもの居場所、課外活動の位置づけ及び地域連携については、今後別の機会、新たな場で検討していきたい。

- ・中学校部活動の地域展開、小学校放課後学童クラブのあり方等については、当委員会とは別の組織において検討が重ねられていく。

(2) 就学前から一貫した支援・指導のあり方に関する事項

① 多様化する児童生徒への支援・指導のあり方に関する事項

○多様な背景を持つ全ての子どもたちが共に学び、共に育つ教育環境を検討したい。

- ・障がいのある子どもや学習面・行動面で著しい困難を示す子ども、外国にルーツのある子ども※、また、特異な才能を持つ子どもなど、多様な背景を持つ全ての子どもたちが共に学ぶことで、一人一人の子どもがその子らしく育っていくことを大切にしていきたい。

※ 外国籍児童を含め、日本語を家であまり話さないすべての児童生徒

- ・不登校・不登校傾向の子どもや、人間関係（友だち・先生・家庭、いじめ等）の状況の変化等、一人一人の状況を踏まえた学びの場、居場所を提供することを通して、誰一人取り残さない教育を進めていく必要がある。

② 保育園から小学校・中学校の連携のあり方に関する事項

③ 保育園・幼稚園から高等学校、短期大学まで揃った町の良さを生かした学校づくりに関する事項

○保育園・幼稚園から高等学校、短期大学まで揃った町の良さを生かした教育の推進に幅広く取り組んでいきたい。

- ・ 保育園・幼稚園から小・中学校、さらに高等学校から短期大学まで揃った町内の教育環境を有機的に生かし、より効果的な教育の提供を図ると共に、それぞれが抱えている教育諸課題にも対応するため、各教育機関どうしの連携、交流による教育環境の整備・向上に引き続き取り組むことを期待したい。

7 検討の経過

(1) 第1回 2024年(令和6年)1月25日(木)午後6時30分～

○委員会設置要綱の確認

○正副委員長選出

・委員長：増澤 利定 さん(学識経験者)

・副委員長：小口 美景 さん(一般公募)

○協議事項

①「辰野町立小・中学校あり方検討委員会」の立ち上げについて

② 町内小・中学校の現状について

③ 検討委員会の進め方について

(2) 第2回 2024年(令和6年)4月25日(木)午後6時30分～

○協議事項

① 委員会開催内容及びスケジュール

② 辰野町小中学校児童生徒数の推移について

③ ワークショップ「辰野町の特色を生かした学校のあり方、地域と連携した教育課程のあり方」について

(3) 第3回 2024年(令和6年)7月9日(火)午後6時30分～

○協議事項

① 資料の確認

・「辰野町立小・中学校のあり方に関する提言書(平成29年9月)」

・「町内小中学校の今後に対する辰野町教育委員会の見解」

・「辰野町の目指す教育ビジョン」

② グループ討議「これからの時代にふさわしい辰野町の学校のあり方について」

(4) 第4回 2024年(令和6年)10月4日(金)午後6時30分～

○協議事項

① グループ討議「これからの時代にふさわしい辰野町の学校のあり方について」

(5) 第5回 2024年(令和6年)11月25日(月)午後6時30分～

○協議事項

① 「辰野町の新たな学校」について学習会と意見交換
・「小中一貫校」と「義務教育学校」

(6) 第6回 2025年(令和7年)1月30日(木)午後6時30分～

○協議事項

① 「小中一貫校」と「義務教育学校」についての学習会
② グループ討議「学校をどう集約していくか」

(7) 第7回 2025年(令和7年)5月21日(水)午後6時30分～

○協議事項

① グループ討議「集約した学校でどのような学びを保障するのか」
「多様化する子どもたちに対応した学校はどうあったらよい
か」
「地域との連携をどのようにしていっていいか」

(8) 第8回 2025年(令和7年)7月21日(金)午後6時30分～

○協議事項

① 小中一貫教育の方向を確認
② 全体討議「集約した学校で、子どもと地域とのかかわりをどのようにした
らよいか」

(9) 第9回 2025年(令和7年)9月30日(火)午後6時30分～

○協議事項

① 全体討議「検討事項にかかわっての論点整理」
・少子化の進展に対応した新たな学校づくりについて
・就学前から一貫した支援・指導のあり方について

(10) 第10回 2025年(令和7年)11月20日(木)午後6時30分～

○協議事項

① 全体討議「検討事項にかかわっての論点整理」

- ・ 少子化の進展に対応した新たな学校づくりについて
- ・ 就学前から一貫した支援・指導のあり方について